

「やってみたら、問いが生まれた。 問い続けてチャレンジしたら人生が変わった」 大塚あみさん トーク ライブ

#100日チャレンジで人生が変わった大学生が語る、行動と思考のリアル。

どんな学生でも、どんなきっかけでも、「やってみる」ことはできる。

このセミナーは、その最初の一步を本気で応援する時間です。

「AIを使ったから」ではなく、「ただ、やってみた」ことから始まった挑戦。

特別な才能や準備がなくても、挑戦はいつだって、自分の“やってみたい”に素直になるところから始まります。

○ 講師紹介



大塚あみさん 著書『#100日チャレンジ 毎日連続100本アプリを作ったら人生が変わった』（日経BP）

合同会社Hundreds代表。大学在学中にChatGPTと出会い、「何か面白いことを」と始めたのが、“1日1本アプリを100日つくる”という自己流の挑戦。プログラミング未経験からの試行錯誤は、やがて周囲の反響を呼び、学会発表や受賞、起業・出版へと広がっていきました。「さぼりたいからAIを使う」という逆説的な動機が、行動と思考を前に進めたこの経験は、誰の中にもある「やってみたい」に火をつけます。挑戦の入口にいるあなたにこそ届く、“等身大のアントレプレナーシップ”です。

○ 開催概要

日時：2025年10月23日（木）18:30～20:30

18:30～18:35 | 開会・主催者あいさつ

18:35～19:35 | 第1部 | 大塚あみさん 特別講演「#100日チャレンジが拓いた思考と行動のリアル」

19:35～20:00 | 第2部 | トークセッション（学生×講師×ファシリテーター）＋質疑応答

20:00～20:10 | 支援機関の紹介

20:10～20:30 | 閉会・交流タイム（会場参加者のみ）

会場：叡啓大学 15階「EikeiTop」（広島市中区幟町1-5）

形式：対面30名／オンライン100名（参加無料・先着順）ZOOM 招待URL等は開催2日前頃に送信予定

対象：起業やチャレンジに関心がある広島県内大学在學生（文系理系問わず）

広島県内の社会人・高校生。PSI参加大学の教員・学生は他県の方も参加可能。

※アイデアがまだ漠然としている人や、動く理由を探している人も大歓迎です。

主催：県立広島大学 × 叡啓大学 × （公財）ひろしま産業振興機構 申込期限：10月17日（金）

申込は二次元コードから



「やってみたら、問いが生まれた。問い続けてチャレンジしたら人生が変わった」

大塚あみさん トークライブ

日時：2025年10月23日（木） 場所：叡啓大学

【セミナー構成】

▶ 第1部 | 大塚あみさん特別講演「#100日チャレンジが拓いた思考と行動のリアル」

生成AIとの偶然の出会いをきっかけに、プログラミング未経験の大学生が“1日1本アプリをつくる”という挑戦を100日間継続。本セッションでは、著書『#100日チャレンジ』では描ききれなかった「なぜ始めたのか？」「何が支えになったのか？」「社会との接点はどう生まれたか？」といった“行動の内側にある問い”を掘り下げます。成果だけでなく、迷いや葛藤に満ちた日々。AIは道具にすぎず、意味を与えたのは“問いと向き合う時間”でした。「やってみた」から「考えるようになった」100日間の軌跡は、私たち一人ひとりの中にある小さな原動力のヒントになるでしょう。

▶ 第2部 | トークセッション＋質疑応答

本セッションでは、挑戦の途中にいる登壇学生が、それぞれの着想や動機、実践のなかで直面した課題や気づきを共有します。その語りに対して、講師やファシリテーターが問いを投げかけ、視点を少し広げていきます。参加者からの質問やコメントも取り入れながら、会場全体で対話的なやりとりを紡ぎ出すことで、登壇者と参加者が共に考えを深めていく時間となります。「聞いて終わる」のではなく、そこから自分自身の問いに立ち返る—そんな思考のきっかけとなる場になれば幸いです。

【トークセッション登壇学生】

■ 青木 一真さん（叡啓大学 ソーシャルシステムデザイン学部3年）

事業承継など人手不足問題に関心を持ち、これまでに外国人観光客と留学生をつなぐマッチングサービスや、AIを活用した業務効率化の仕組みなどを考案してきた。現在はスタートアップのCOOとして、企業の離職者数を減らすことで人手不足の課題に取り組むサービスを展開中である。身近なニーズに寄り添いながら、小さなアイデアを行動に移す力を育んでいる。



■ 小林 颯さん（県立広島大学 地域創生学科健康科学コース1年）

高校時代から福山市の特産「くわい」の廃棄物を活用し、和紙づくりをビジネス化する取り組みを開始。地域資源を活かした価値創出に向けて、ビジネスコンテストにも挑戦。現在は県立広島大学で「起業部：コネクトル」を立ち上げ、広島から起業を目指す学生の活動を牽引している。「身近な素材から未来をつくる」をモットーに、地域とつながる挑戦を続けている。



【ファシリテーター】

■ 島川 龍哉 特命准教授（県立広島大学地域基盤研究機構）

医療経営学・医療情報学を専門とし、広島県の医療DX推進に幅広く関与。大学では産学官連携を担い、経営専門職大学院（HBMS）ではヘルスケアビジネスをテーマに実践的な教育を展開。事業と制度、教育をつなぐ立場から地域課題に向き合い、“地域社会とつながる学び”を通じて変化の芽を育んでいる。

■ 川畑 哲郎 准教授（県立広島大学地域基盤研究機構）

知的財産の管理・活用、大学発ベンチャー支援業務、そしてアントレプレナーシップ教育を専門とする。大学では、研究成果の社会実装や知財の戦略的活用を支援しながら、起業や事業創出に関わる実践的な学びを展開。学生の視点と行動を尊重し、「挑戦することの価値」を伝える教育に力を注いでいる。

なんとなく「起業」にひかれるけど、まだ自分ごとじゃない。

アイデアはあるけど、行動する勇気が出ない。

誰かの挑戦を聞いて、自分も何か始めてみたくなった。

自分の中にある「問い」や「もやもや」から、あなたの“ACTION”が始まります。